

011 From Editor

013 表紙の時計 / ロジェ・デュブイ ユグスカリバー アヴェンタドールS

014 Editor's Choice!

ロレックス ユエリーニムーンフェイス / ブランパン ヴィルレディ・デイト /
ペキエ リューロワイヤルアン(一) フォンクシオン ハンドワインディング / ゼニス デファイエル プリメロ 21
ベル&ロス BR-X1 ホワイトホーク

020 世界は時計で回っている。

022 A.ランゲ&ゾーネ トウルボグラフ・パーペチュアル・プール・メリット

複雑機構を盛り込んだ迫力あるムーブメントの魅力

024 ヴァシユロン・コンスタンタン ユヒストリーク & ユトラディショナル

ノスタルジックな佇まいにみる時の美学

027 パネライ ユルミノール 1950 シーランド スリーデイズ オートマティック アッチャイオ

中国の旧正月を干支の彫金で祝う

028 モリッツ・グロスマン ユアトム・デイト

グラスヒュッテの新進時計メーカーの美意識

030 ロマン・ジェローム ユデロリアン・DNAバーンアウト

想像力を刺激するDNAシリーズにスポーツカーが登場

032 モノブロック・アクチュエーター GMTクロノタイマーと ユ1919ワンミリオン911リミテッド・エディション

ポルシェ・デザインのニューカマーたち

034 グラハム ユクロノファイター & ユシルバーストーン

信念は「ファミリー・ビジネスとしての独立を保つこと」

038 コルムの主要コレクション

「ルーツに立ち返る」を基本に新体制下で強化を図る

041 2018年新作情報〔ジュネーブ編〕

次代を見据えて新たな魅力の創出を 模索する高級メーカー

1月15日から19日にかけてジュネーブで開催された第28回SIHHは出展社数は今までで最高の35社。そして入場者も記録的な数字となり、高級時計が再び好調になりつつあることを感じさせた。

SIHHを中心にジュネーブで発表会を開催した41ブランドの新作と今年の傾向を紹介。

098

異色なキャリアからスタートし、最前線を疾走するクリエイター同士が共振した日

ローマン・ゴティエ氏が浅岡肇氏のアトリエを訪問

時計ジャーナリスト 瀧澤 広の『マイ・チヨイス』 第23回アインソレーター機構つきスプリットセカンドクロノグラフ
 ブライトリング、ナビタイマー、ラトラパンテ

新製品情報

102

ヴァンクリーフ&アペル 心斎橋店 日本国内最大規模のブティックがオープン

ブルガリアウローラアワード2017セレモニー 輝ける女性たちを讃えて

106

プシロン銀座リニューアルオープン

ジュエリーの輝きを引き立たせる明るい空間が誕生

107

プシロン160周年記念展覧会『ヴァンドラマ』

パリの歴史的建物を背景に開催されたユニークな展覧会

108

ペキニエと『ゴ・エ・ミヨ』 東京・北陸・瀬戸内2018

美食ガイドブックに協賛したフレンチ・マニユファクチュール

109

スキー・スノーボード世界選手権『フリーライドワールドツアー』ハクバ

冬のエクストリーム・スポーツを支援するフェアブルーパー

110

ミドー創立100周年記念パーティー

今日の上海を象徴する先端的な地区で祝った1世紀の歩み

111

ジン本社の新社屋に訪問

フランクフルト・ゾッセンハイムに生産の拠点を移す

112

2017インポート・ウオッチ・オブ・ザ・イヤーズ決定

選考基準は『CWCがお客様に一番推薦したいモデル』

114

120 インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告

A・ランゲ&ゾーネトウルボグラフパーペチュアル・プール・メリット

複雑機構を盛り込んだ迫力あるムーブメントの魅力

A・ランゲ&ゾーネは毎年のSIHHで新開発のコンプリケーションを発表し、それが時計愛好家たちの楽しみとなっている。昨年にはスーパー・コンプリケーションと呼ぶにふさわしい時計が登場した。そこにはドイツの一流精密機器に通じる味わいがある。

1年にひとつずつ、SIHHの会場で新開発のムーブメントを披露する。これは10年以上前にA・ランゲ&ゾーネの首脳陣が口々に語っていた、ある種、重大な宣誓。だったが、その言葉どおりこの時の発表は現在までほぼ忠実に守られている。

シヨンと呼ぶに相応しいモデルで、それは伝統的な技法であるチェーン・フュージ（鎖引き機構）を装備した最も高度なメカニズムをもつ腕時計を不すプール・メリット。コレクションの第5作目にあたる。

たとえば、近年では4年前の2014年に発表された新製品はリヒャルト・ランゲ・パーペチュアルカレンダー、テラ・ルーナ、だったし、3年前はツァイトヴェルク・ミニッツリピーター、2年前はダトグラフ・パーペチュアルカレンダー・トゥールビヨンという調子である。さらにこれら超複雑系の顔ぶれを見れば、同社がムーブメントの新規開発に対して、いかに力を注いでいるかが分かる。

はじめに新開発のムーブメントをざっと紹介しておく。

直径43・0mm×厚さ16・6mmのプラチナ950ケースに搭載されるのは、手巻き式のCal. L133・1であるが。ダイヤモンドの受け石を2個装備した石数は合計52石で、スベックは2万1600振動、パワーリザーブ約36時間と発表された。

このムーブメントは複雑な機構を多数組み合わせているにも関わらず、直径32・0mm×厚さ10・9mmと比較的小ぶりに収められており、684個のパーツで構成される。ベース・ムーブメントから作り直しを行った今回の開発は、数々のファンクションをどのポジションに置き、さらに互いの干渉を防ぐかが最大の課題

それでは昨年の新製品は何だったのか？ その答えはここに採り上げたトウルボグラフ・パーペチュアル・プール・メリットである。機構と機能を、文字通りてんこ盛りしてしまった本機は、まさにスーパー・コンプリケー

であったとのことだが、この数値を見る限りでは十分な成果が得られたように思える。余談だが、上記の総パーツ点数の中には、636個の部品から成るチェン・フュージ機構をまとめて1個と数えているとのことだ。

肝心のファンクションは……

- ① パーペチュアル・カレンダー
- ② ムーンフェイズ
- ③ クロノグラフ
- ④ スプリット・セコンド・クロノグラフ
- ⑤ トゥールビヨン
- ⑥ チェーン・フュージ

は上級モデルに相応しく、例によって誤差が122・6年に1日という比較的高精度な機構を装備する。

いっぽう、第2のストップ・ウォッチであるスプリット・セコンド（ラトラパンテ）機構を併せ持つクロノグラフ③④は、プール・メリット同様、懐中時計から受け継いだ超複雑機構のひとつである。言うまでもなく、このメカニズムはゴールドのクロノグラフ針の上にセッティングされたブルード・スチール製のラトラパンテ針を任意にストップさせることができるため、ふたつの経過時間を思いのままかせて測定することが可能だろう。

なる、合わせて6つの機構と機能が積み込まれる。この中で、3つのインダイヤル内に表示される①②の永久カレンダーとムーンフェイズは、デイ・デイト、マンス、リープイヤーマン相というポピュラーなものだが、その永久カレンダー機構をトゥールビヨンの周囲に置くことにより、限りあるムーブメントのスペースが有効に活用された。ムーンフェイズ

なおコラム・ホイールをふたつ装備したこのスプリット機構を司るのは10時のプッシュ・ボタンである。はじめにラトラパンテ針を停止させ、再度押すことにより、作動中のクロノグラフ針の上に復帰させることができる。

⑤と⑥は、ともに精度を高めるために、懐中時計時代に考案された機構である。

モリッツ・グロスマン アトウム・デイト

グラスヒュッテの新進時計メーカーの美意識

創業から間もないが、モリッツ・グロスマンには老舗の高級時計メーカーにも劣らないデザイン要素を見ることができ、昨年新作も同様で、日付け表示を備えるが、文字盤には無粋な窓枠がないスマートな時計だ。まさにこのブランドの真骨頂である。



洋銀製の2/3プレートを使った手巻き式のロー・ビート・ムーブメントには、14.2mmの大きなテンワとフィリップ・カーブをもつヘア・スプリング、さらに特徴的なゴールド・シャトン留めが採用される。

るところに身につけているのだ。

ここに紹介するのは、昨年発表されたモリッツ・グロスマン初となるデイト付きのアトウム・デイトである。ベース・ウォッチに使われているのはスモール・セコンド仕様で、大きな風防を特徴とするアトウムであり、その外観上の違いはダイアル周囲にデイト表示が取り付けられると同時に、10時位置にデイト修正用のクラウンをもつことだ。

本機でまず注目したいのは、デイトの表示形式である。それは、フレーム表示もしくはブラケット表示と呼ばれるもので、文字盤周囲にプリントされた1から31日までのデイト上を、枠が時計回りに動いて日付けを知らせるタイプである。この方式は、1940年代から1960年代にかけて生産されたリストウォッチに散見されるが、何と言ってもその特徴は文字盤に無粋なデイト窓を開けなくて済むことであり、またポインター式のデ

それは今から15年以上も前の話だったと記憶する。とある時計メーカーが主催する晩餐会のテーブルで、左隣の席に着いたのはドイツの時計雑誌、クロノスの編集長だった。そこで話題となったのは各国の高級時計のことで、彼の口からは「日本には高級な機械式腕時計はありますか?」という、強烈な質問が来た。もちろん、そんなことを彼自身が知らない

はずはないと思いつつも、クォーツ・ウォッチは文句なく世界一ですが、残念ながら高級と呼べる機械式時計はありませんと述べ、さらに返す刀で同様にドイツの高級時計について聞いてみた。

すると「わが国には一社だけあります。それはランゲ&ゾーネで、ドイツの中では、完璧に飛び抜けた存在です」という。こちらもほぼ分かりきった内容だった。

ただし、興味深かったのはこれに続く彼の意見である。それは「大多数の時計メーカーは規模が小さく、また資本的にも乏しいため、高級な腕時計を作るのは難しい」とのことであった。しかし、言い換えればこれは、ある程度の資本力と、何かしらのチャンスさえあれば、間違いなくハイクラスな腕時計を作り出すことができるということだと受け取れた。

実は、モリッツ・グロスマンの新作を見る度に思い出すのが、この時のクロノス編集長の言葉である。確かに2008年に旗揚げしたばかりの同社は、コレクションの数もまだ僅か、その多くは基本的なモデルでしかないが、たとえば針とインデックスなど、詳細な部分の作り込みや均整のとれたそのデザインを見る限り、時計好きの心に訴えかける製品を着実に世に送り出しているように思える。つまり、値段だけでは決して語ることはできない、高級時計としての要素をいた

2018年ブランド別新作情報【ジュネーブ編】

次代を見据えて新たな魅力の創出を模索する高級メーカー

1月15日から19日までジュネーブのパレクスポで開催されたSIHHは、今年で28回目を迎えた。主催者のFHH（高級時計財団）の発表によると、来場者数は昨年よりも20%増加した約2万人、そのうちプレス関係者は12%増の約1500人で、SIHHとしては記録的な数字だったという。また昨年から始まった、申込制かつ有料で一般に会場を開放するオープンデーには、昨年とほぼ同様に約2500人が訪れた。

会場ではエルメスがバーゼルワールドからSIHHに新作発表の場を移して初めて出展した。小規模ブランドが集う「カレ・デ・ゾロジャー」には5ブランドが加わった。こうして今までで最大規模の35社が出展し、会場の広さも約20%拡張された。

このような数字的な変化もさることながら、ツイッターやインスタグラムなどのデジタルメディアに対応するために、さまざまな設備が整えられた点が大きな変化であった。テレビのスタジオのような設備のオーディトリウム（ホール）が



設けられたことも、そのひとつ。ここでは各ブランドがさまざまなプレゼンテーションを行い、それがSIHH2018アプリケーションなどで外部に向けてライブ発信された。

今年のこのような試みは試験的に行われたものだが、結果的には大成功を収めたようだ。会期中に世界中の延べ2億8000人がSIHH関連のデジタルメディアにアクセスしたという。

ところで今年には多くのブランドで「ネクストジュネレション」という言葉が聞かれた。つまり次世代の時計愛好家を開拓することが今日の業界の課題であり、デジタルメディアの活用はその手段のひとつにはかならない。情報発信の方法が急激に変化している今日、高級時計の世界もその波を無視することはできないのだろう。

さてここではSIHHの31社とウォッチブランドで開催されたWPHH、そしてジュネーブ市内のホテルで新作を発表したLVMHグループなど、全41ブランドの主だった新作を紹介したい。

異色なキャリアからスタートし、最前線を疾走するクリエイター同士が、共振した日

ローマン・ゴティエ氏が浅岡肇氏のアトリエを訪問

取材・文／まつあみ靖



(左)浅岡肇氏。1965年神奈川県生まれ。東京芸術大学卒業後、プロダクトデザイナー、グラフィックデザイナーとして活躍。独学で腕時計作りを学ぶ。2015年より独立時計師アカデミーの正会員。(右)ローマン・ゴティエ氏。1975年スイス・ジュウ渓谷のル・サンティエ生まれ。精密機械のエンジニアとしてキャリアをスタートさせ、2002年にMBAを取得し、2005年に起業、2007年にバーゼルで『プレステージHM』を発表。2018年からSIHHにも出展。

浅岡肇氏とローマン・ゴティエ氏。現代のハイエンドウォッチをリードする存在であることは『世界の腕時計』読者なら、既にご承知だろう。二人は、いわゆる時計師として、ストリートにキャリアを重ねてきたわけではない点でも共通している。

浅岡氏は、プロダクトデザインやグラフィックデザインの世界を経て、独学で腕時計製作に手を染め、2009年に初のトゥールビヨンを完成させる。15年にアカデミー正会員になって以降も力作を発表、昨年発表したクロノグラフも注目を集めた。

一方ローマン・ゴティエ氏は、精密機械エンジニアとしてキャリアをスタートさせた後に、改めて経営学を修めMBAを取得。その論文は『ローマン・ゴティエ・ウォッチのための事業計画』。マーケティング点な視野を持ちつつ、時計師／エンジニアでありながら経営者としての優れた手腕を発揮している。

ゴティエ氏は、独立時計師界の重鎮、フリップ・デューフォー氏に私淑していることが知られているが、アカデミーに属することなく、独自の道を邁進。一方、浅岡氏はアカデミーメンバーとして、デューフォー

氏をリスベクトし、薫陶を受けている。「もちろん、スタンスは違いますよね」と浅岡氏は言う。

「とにかくローマン・ゴティエの時計の仕上げは凄いですね。現在の時計界で一番じゃないですか」

と、リスベクトを隠さない。

そんな浅岡氏の東京・神宮前にあるアトリエを、来日中のローマン・ゴティエ氏が訪ねたのは、昨年11月29日のこと。それぞれの関係者同士が知り合っていたことから、二人の対面が実現した。

面識はありながら、突っ込んだ言葉を交わすのは、今回が初めて。最初はどことなくぎこちない雰囲気になきにしてもあらずだったが、雑談的にインデックスのプリントの方法や、ヒゲゼンマイの巻き込み角、設計ソフトの開発などなどの話題で徐々に場が温まっていった。

浅岡氏は、自作の CNC マシンを駆使して、極めて精密なモデルを作り上げることで知られているが、その作業場をローマン氏が見学。浅岡氏が「プリミティブ」と謙遜する現場を目にして、ゴティエ氏もさすがに驚いた表情を浮かべていた。

ワールド・ムック1170
WORLD WRIST WATCH

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Correspondents,
Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Mikako Burks

Cover Photo/
Courtesy of Rogger Dubuis

●本誌に掲載されている価格は
平成30年2月28日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税込の総額表示です。
© WORLD PHOTO PRESS 2018

【次号予告】

2018年 新作情報 「バーゼル編」

3月22日から27日までの6日間にわたって開催されるバーゼルワールド。今年では会期が2日間短くなり、出版社数も大幅に減少します。

これにはさまざまな要因が考えられますが、スイス時計業界の現況を映し出しているとも言えます。とはいえパテックフィリップやロレックス、シヨパール、スウォッチグループ、そしてLVMHグループといった主要メーカーやグループがバーゼルワールドの主役であることは変わりません。

果たして彼らがどのような新作で時計愛好家たちを楽しませてくれるのでしょうか。また今年の傾向は？

ジュネーブ編と同様にブランド別に新作をご紹介します。

「注目された新作の詳細をレポート」

昨年に発表されたパルミジャーニ・フルリエの「ブガッティ」タイプ390、独立時計師の時計を集めたギャラリーのステラ・ポラレがクリスチャン・ヴァンダー・クラウの協力を得て製作した「ステラ・ネピュラ」など、編集部が注目した時計を取り上げます。

「世界の腕時計」第136号は2018年6月8日発売です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします！

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,584円(税込)**

(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



お詫びと訂正: 第134号に下記の誤りがありました。お詫びして、訂正いたします。
P56の見出し(正) 5つのファミリー、(誤) 6つのファミリー。P70の上限、最初から3~4行目(正) ハンドヴェルクスント、(誤) ハンドヴェルクスント。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

●お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**

●インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>

●携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>

●QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承ください。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1170

世界の腕時計

No.135

平成30年4月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。